

AIエージェントを活用したデータ分析生産性向上プロジェクト

現状及び課題、解決策と目指す姿

- 熱海市は、年間306万人が来訪する観光地である一方で、インバウンド宿泊者比率は5.1%にとどまっている。
- 昨年度、インバウンド集客強化に向けた方向性を定めたが、KGI、KPIに基づく網羅的なデータ取得基盤が未整備であり、取得したデータの分析に必要な人的工数や専門人材も不足している。
- このような状況を踏まえ、生成AIを活用した「AIコンディションボード、AIエージェント」を導入し、インバウンド施策に必要なデータ分析、意思決定、実行、評価の一連の流れを自動化、効率化する。
- 本実証を通じて、限られた人材でも戦略的なPDCAサイクルを回せる体制を整備し、インバウンド施策に関する業務の工数削減と組織の生産性向上を実現することを目指す。

事業概要

本事業では、熱海市の抱える「①データの整理、活用/②人的工数/③専門人材」の3つの不足という課題を生成AIを活用して解決すべく、地域サイトや口コミデータ等を学習させた熱海市専用の「AIコンディションボード、AIエージェント」を導入し、限られた人材や時間の中でも、データを活用した戦略的なインバウンド施策の実行と振り返りを可能にすることを目指す。

取組地域：静岡県熱海市

コンソーシアム名：熱海生成AI協議会

代表事業者：熱海市役所

実証内容

- データ収集、分析を行う分析基盤「AIコンディションボード、AIエージェント」の構築
- 分析基盤の活用による施策検討～振り返りまでのPDCAの自動化

目標値

KGI AIによる業務自動化件数(16件)

KPI AIによるタスク自動化率(32%)

